

中国事情研究部会 2016 年度 第 3 回研究会報告

日 時：2017 年 1 月 28 日（土）11 時 45 分～14 時 30 分

場 所：新宿小田急ハルク 8 階「小田急ハルク叙々苑」

講 師：諏訪一幸氏(静岡県立大学教授)

テーマ：2017 年の中国及び周辺国「ミャンマー、ラオス等」
の最新事情

参加者：6 名

<発表の概要>

◇中国の 2017 年

1. 外交—核心的利益の死守（一带一路推進、海洋進出、中ロ関係強化）に変更なし。

（1）米中関係

トランプの出方—関税、安全保障、台湾

見通しは不透明。現時点の中国の反応は慎重。

（2）アジア太平洋

（3）経済外交

（4）日中関係—9 月 29 日は、国交正常化 45 周年記念日。目途立たず。

2. 内政—下半期に **19 回中国共産党大会**

（1）党規約

（2）人事—王岐山の留任可能性、浙江省時代の部下の中央進出、中央政治局常務委員等

以上、2017 年度の中国の政治動向の報告の後、2016 年 12 月に訪問したラオス、ミャンマーの近況について報告があった。

◇周辺国の近況

1. ミャンマーの近況（ヤンゴンの状況、中国の進出状況）

2. ラオスの近況（中国の進出状況—磨丁経済特区、中国—ラオス鉄道）

発表の後、質疑応答。並びに意見交換が行われた。

以上

